

間違った答えを書けば正解がやって来る、カニングガムの法則（Cunningham's Law）

記事のURL

<https://www.gklibrarykor.com/ja/article/10560/>

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

インターネットのコミュニティに「これ、どうやるんですか？」と質問を投稿しても、長いあいだ誰も答えてくれないことがよくあります。ところが誰かがでたらめな答えを自信満々に書いておくと、数分もしないうちに「それは間違いです」というコメントとともに、正確な説明が次々と寄せられたりします。この不思議な現象を一文でまとめたインターネットの格言があります。それが「カニングガムの法則（Cunningham's Law）」です。カニングガムの法則とは、簡単に言えば「インターネットで正しい答えを得る最善の方法は、質問を投稿することではなく、間違った答えを投稿することだ」という経験則を意味します。人は、まだ答えのない質問に答えるよりも、目の前の間違った答えを正すことのほうにずっと素早く動く、という観察が込められています。本記事では、カニングガムの法則がどのように生まれたのかに始まり、人が間違った答えに反応する理由、この法則が現れる場面、そして活用するときに気をつけるべき点まで、順に見ていきます。間違った答えが正解を呼ぶカニングガムの法則 カニングガムの法則はどこから来たのか この法則は、名前の主よりも、その言葉を覚えていた同僚のおかげで広く知られるようになりました。（1）ウィキを生んだプログラマー法則の名前は、アメリカのプログラマー、ウォード・カニングガム（Ward Cunningham）に由来します。彼は